

2025 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽中学校	学校 No.	5 6
-------	-----------	--------	-----

1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)

本校は、「心身ともに健やかで、思いやりがあり、たくましく生きる人間を育てる」を教育目標に、福祉教育を通じて、他者の痛みを理解し、互いに支え合おうとする豊かな心を育んだり、地域社会の一員としての自覚を持ち、多様な人々と共生していくための基礎的な実践力を養ったりして、「夢を育む教育活動・豊かな心を育てる教育活動」の充実を目指している。

福祉活動については、今年度も「障害者の方々と共に生きる明るい社会を作るために、自分たちに何ができるのかを考え、実践できる生徒の育成」を目標に、活動への契機となる体験を通して介護や福祉に対する理解の深化、ボランティア精神の育成を図ろうと、校内・校外の諸活動に取り組んできた。

推進体制として、各学年に福祉担当教員を配置し、道徳や家庭科の授業や職場体験（ゲストティーチャーに学ぶ会の分科会）などの学校行事の実施を中軸に、地域でのボランティア活動や生徒会による募金活動など、幅広く福祉活動を進めてきた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)

(1) 社会福祉に対する関心を深め、意識を高める活動

① 各種施設でのボランティア活動（7、8月）

障害福祉サービス事業者「あおぞら」、「コスモス」、特別養護老人ホーム「丹陽」、おもちゃ図書館「なかよし」で、ボランティア活動を体験した。障害者施設では、キャンドル作りや自転車の解体作業を行うことで、作業所の人たちと交流することができた。高齢者施設では、高齢者の方の話し相手をしたり、介助の手伝いをしたりして、福祉について考えることができた。また、おもちゃ図書館では来館した未就学児に絵本の読み聞かせをしたり、プレゼント作りやおもちゃの整理整頓をしたりした。

② 赤い羽根共同募金（11、12月）

募金活動を通じて、具体的な行動を起こす機会を提供するために、校内で赤い羽根共同募金を行った。生活委員や生徒会など多くの生徒が、協力を呼びかけ、多くの募金を集めることができた。(図①)

また、代表生徒が校区内の商業施設で赤い羽根共同募金への協力を呼びかけた。校区内で行うことで、地域の方の協力を得られた。生徒にとっても地域の方の温かい心に触れることとなり、よい経験になった。(図②)

(2) 地域社会との連携を深めた活動

ゲストティーチャーに学ぶ会（1月）

地域の方を招いて、地域の歴史や仕事などの経験談を聞くことができた。ゲストティーチャーの先生方の熱意のこもったお話に、真剣に聞き入る姿が見られた。(図③)



図①



図②



図③

3. 福祉教育の成果と今後の課題

福祉活動を通して、生徒たちが人の役に立てた喜びを感じたり、学校内だけでは得られない学びを経験したりすることができた。教科との連携を強め、生徒の関心、意欲を高めながら、学校として今後も積極的に社会福祉活動に参加できる生徒を育てていきたい。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中学校	学校No.	57
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>重点努力目標を「利他共生」と設定し、高齢者や障害のある人に対して関心と理解を深め、ボランティア活動等に積極的に参加し、活動を進めた。</p> <p>委員会やボランティアの生徒を中心に、次のようなねらいで計画し、実施を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行事や授業での取り組みを通して、福祉に関する理解を深めさせる。 ○地域ボランティア等を通して、福祉に対する向上をはかる。 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>○通年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業で「いのち」や「人」をテーマに据え、生命の尊さや思いやりの心について学習を行った。道徳の授業を通して、継続的に取り組み、福祉の意識や人間の尊厳について考えた。 ・各種ボランティア募集 <p>○4月「緑の募金」12月「赤い羽根共同募金」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各募金活動、支援活動を生徒会を中心に実施した。 <p>○5月、10月、1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校連携あいさつ運動を実施した。あいさつする習慣を身につけ、地域や保護者とのよりよい関係づくりを目的に、中学生が小学校門に立ちあいさつ運動を行った。 <p>○5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生で福祉実践教室を実施した。生徒に興味ある講座を選択させ、事前に調べ学習を行うことで関心を高めた。当日はどの生徒も興味深く話を聞き、意欲的に体験に取り組めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div data-bbox="1034 636 1331 880" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1058 887 1278 922" data-label="Caption">募金活動の様子</div> <div data-bbox="1011 936 1337 1214" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1026 1218 1303 1254" data-label="Caption">あいさつ運動の様子</div> <div data-bbox="188 1317 478 1576" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="571 1317 874 1585" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1002 1317 1305 1585" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="715 1630 989 1666" data-label="Caption">福祉実践教室の様子</div> </div> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>道徳教育でいのちや生き方について、多面的・多角的に考える学習を継続的に行うことにより、福祉教育に関する意識を高めることができた。</p> <p>福祉施設や地域でのボランティア体験について、参加希望者は毎年たくさん申し込みがあるので、ボランティア活動に対する意識は高まっていると感じる。</p> <p>今後も自分たちができることを考え、全校で取り組めるような実践を続けていきたい。また、地域の方々とともに、より充実した活動を行っていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和中学校	学校No.	59
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は、「『笑顔・輝け・大中』のもと、心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒の育成をめざす」ことを、教育目標に挙げてい る。今年度も社会福祉実践校として、社会福祉に関する理解と関心を高め、「共に生きる」姿勢を育てることを目指し、福祉教育推進係や各学年・生徒会を中心に活動を進め ている。</p> <p>○一宮聾学校や本校特別支援学級との交流を通して、障害のある人との心のふれあいを深め、理解推進を深める。</p> <p>○福祉実践教室を通して、障害のある人の日常生活について正しい認識を深め、共にたくましく生きようとする気持ちの高揚を図る。</p> <p>○福祉体験やボランティア体験活動を通して、思いやりの心と助け合う態度の育成を</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>（1）一宮聾学校や本校特別支援学級との交流</p> <p>7月の交流会では、一宮聾学校で「借り物競争」が行われた。本校の生徒と聾学校の生徒が互いに協力しながらカードに書かれたものや人物を見つけてくるリレーを通して、絆を深めるとともに、互いに理解し合うことができた。11月に生徒会との交流会を本校において実施し、ボーリング大会を行って交流を深めた</p> <p>本校特別支援学級は、交流学級から多くの学校行事に参加し、集団の中における社会性やルールを学ぶことができた。</p> <p>（2）福祉実践教室</p> <p>福祉についての理解と実践態度の育成を図り、「共に生きる」明るい社会をみんなで作ることをねらいとして、1月に実施した。事前に当日受講する講座の学習を進め、疑問に思ったことを講師の方々に質問できるようにして福祉実践教室に臨んだ。車いす・手話・点字・視覚障害者ガイドヘルプなどの体験を講座別に行い、実践力を高めていくことができた。どの講座も講師の方の熱心な説明にしっかりと耳を傾け、生徒は意欲的に取り組んでいた。これらの体験によって、生徒は障害者の苦勞を知るとともに、障害にめげず一生懸命に生きてみえる姿に感動し、自分に与えられたものに感謝したいという思いを抱いた。福祉実践教室を通して、生徒の心が豊かになり、思いやりの心が高まっていったと考えられる。</p> <p>（3）福祉体験活動・ボランティア体験活動</p> <p>一年間を通じて、さまざまなボランティア福祉体験を実施した。参加した生徒は、みな貴重な体験ができ、大変よかったと感想に書いていた。相手を思いやる気持ちを育て、感謝される喜びを味わうことができた。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>生徒会や各学年・クラスの活動の中で、多くの生徒が積極的に福祉活動に参加した。福祉活動を通して、生きた心の教育ができた。また、交流活動を通して、思いやりの心や共生への意識の高揚が見られるようになった。さらに、福祉活動を行っていく中で、生徒が自分自身を見つめなおすよい機会にもなった。</p> <p>今後も、中学校3年間で誰もが福祉の体験活動ができるようにさせていきたい。また、地域の方とのふれあいを大切にして、地域に広がる活動を展開していきたい。そして、ボランティア体験活動への参加を強く呼びかけ、生徒の参加を一層増やしていく努力をしていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2025年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢中学校	学校No.	60
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>「いのちを大切に、豊かな心をもつ、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標に、福祉に関わる様々な活動を通して、礼節や思いやりの心を育て、人権意識の高揚を図るとともに、いじめや不登校生徒をつくらぬ学校をめざし、実践に取り組んだ。</p>			
<p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 夏季ボランティア体験</p> <p>毎年、夏季休業中に、校区内の福祉施設でボランティア体験活動を行っている。ボランティア体験では、食事の介助や身の回りの世話、施設利用者とのレクリエーションなどを行った。この体験を通して、介助の一つひとつが利用者の生活に直結していることを知り、細かな変化に気づくための観察力や、相手の立場に立って考えようとする気持ちが養われたと感じている。この経験は、自分自身の将来や社会との関わり方を考える大きなきっかけとなった。</p>			
			
<p>(2) 生徒会活動（いじめ追放宣言書づくり）</p> <p>6月に生徒会からの呼びかけで、いじめ追放宣言書づくりが行われた。各クラスで、「教室をより安心できる場所にするためにはどうすればいいか？」を考え、クラスがいじめ追放宣言書を作成し、生徒議会で、学校全体のいじめ追放宣言書を発表し、教室に掲示した。また、12月の人権週間に合わせて、いじめ追放宣言書のふりかえりを行った。クラスだけでなく、学校全体でいじめを許さないという考えを示し、生徒一人ひとりがいじめをなくするために何が必要かを考えることができた。</p>			
			
			
			
<p>(3) 福祉実践教室の実施</p> <p>11月28日に本校にて、福祉実践教室を行った。1年生が、手話・点字・車いす体験・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験・認知症理解・発達障害理解のいずれかの講座に参加した。誰もが過ごしやすい社会をつくるためにできることを考えることができた。</p>			
			
<p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉体験学習・ボランティアへの参加希望者が増え、生徒の福祉への関心は高まりつつある。「誰かのために働きたい」という生徒の思いを形にできるように、地域の行事にボランティアとして参加できるような機会を、地域づくり協議会と連携して増やしていきたい。</p> <p>福祉実践教室を通して、障がい者や高齢者への接し方、ユニバーサルデザインについて学び、生徒の福祉への関心を高め、視野を広げることができた。</p> <p>また、生徒会活動の人権学習やボランティア等で学んだことや高めた意欲を、日々の活動に生かせるようにしていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。